

第16号

小報もがみ

世界を動かす仕事



「田舎には働く場所がない。だから若者が外へ出ていってしまう」という言葉をよく聞くが、本当にそうだろうか。では、魅力的な仕事とは何だろう。大手企業に就職し高層ビルの中で働くこと？ 最上町には高層ビルも無いし、満員電車も走っていないが、世界を動かす機械を作っている会社がある。

万騎の原にある株式会社ジイエムシーヒルストーンは1991年に設立されたベンチャー企業。製造しているのはシャフトモーターだ。電気関係に詳しくないと何のことだか分からないかもしれないが、一般的な回転型のモーターに対し、シャフトモーターというのは直線の動きをするモーターのこと。もともと、レーザー加工機を製造していたGMCという会社で、高性能なモーターが必要となり独自開発して作られたのが始まりだ。構造的には難しいものではないが、他に製造している所もなく、将来性のあるモーターとして期待された。そして創業者の「故郷に雇用を生み出したい」との思いから、ここ最上町に本社と工場が建てられた。

直線の動きの他にも特徴的な使い方がある。それが、慶応大学が中心となって研究開発されているリアルハプティクス技術への応用だ。リアルハプティクスとは、ロボットの手で触った物体の感覚を人間の手に伝えることのできる技術。似ているものとしてダヴィンチという腹腔鏡手術ロボットがあるが、メスが肌に当たって押し返してくる感覚が伝わらないという欠点がある。どれくらい力を入れるべきかが分からないと深くメスを入れすぎてしまったりするのだ。リアルハプティクスは、その押し返す圧力もデータにして再現できるので、より正確な手術をすることができる。そこにナノ（100万分の1ミリメートル）の精度まで再現できるシャフトモーターが重要な役割を担っているのだ。

リアルハプティクス以外にも、企業名は公にはできないが、スマートフォンや電気自動車などに不可欠な半導体を生み出す装置、飛行機の部品を作る機械などにも使われている。シャフトモーターを使うことで精度が高まり、医療ミスや飛行機事故への削減にもつながっているのだ。

注文はアジア各国のみならず、アメリカやヨーロッパなどからも来るといふ。モーター自体は、簡単な原理であるため、最近ではコピー商品が出回ることもあるというが、一番最初に開発したという信頼と、お客様のニーズに合わせてアレンジを加え、オリジナルで作れる強みから有名企業からのオファーは絶えない。

田舎でもジイエムシーヒルストーンのように世界に通じる技術を生み出すことができるのだ。沼澤明広社長は「これからは発想力のある人材が必要だ」と言っていたが、今ある仕事や技術に、新しい発想を加えることで変化を生み出すことだってできる。

最上町にはチャレンジ精神旺盛で元気な企業はたくさんある。やりたい仕事がないと思うのであれば、自分で作ればいい。小さな田舎町だからこそ、低いハードルで大きなことにチャレンジできるのではないかと思うのは、私だけだろうか。

2021年3月24日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子
情報提供や山崎とお話したい方はご連絡ください
電話0233-43-2261

（最上町役場まちづくり推進室）

メールhayakawamiyage@gmail.com